

南信州広域連合第8回広域連合会議 結果報告

日時：平成26年11月17日(月)14:27～15:31

場所：長野県飯田合同庁舎講堂

1 開 会…14:27

【出席者】14市町村長（天龍村副村長）・佐藤副管理者

〔下伊那地方事務所〕有賀所長・松田副所長・石田リニア推進幹・丹羽地域政策課長

〔飯田保健福祉事務所〕佐々木所長

〔飯田建設事務所〕山岸所長

〔飯田市〕細田リニア推進課長

〔町村会〕牛久保事務局長

〔飯田広域消防〕桂消防長・関島消防次長

〔飯田環境センター〕米山事務長

【事務局】渡邊事務局長・吉川事務局次長・塚平事務局次長補佐兼企画調整担当専門主査・北原事務局次長補佐兼庶務係長・秦野事務局次長補佐兼広域振興係長・下島介護保険係長・片桐庶務係主事

2 広域連合長挨拶

リニアの事業認可後、沿線各地域において事業説明会が始まっている。社会インフラとしてのアクセス道路、駅周辺、スマートIC等の整備についても具体化を図るべく、計画策定や構想会議の開催がなされている。今後こうした動きが加速していくものと思うが、「基本構想・基本計画」において、リニア将来ビジョンをベースにその将来像を検討している南信州広域連合としても、適時的確な対応をしながら各市町村のバックアップをするとともに、地域の総意を国やJRに示していければと思う。

昨日は、宮下一郎先生、吉田博美先生のお祝いに駆けつけていただきお礼を申し上げる。広域連合及び議会が発起人として開催したその役割は果たせたと思う。

昨日、一昨日と行われた県縦断駅伝において、飯田下伊那チームが3位という成績を挙げた。当地域の若い皆さんも頑張っている。これを励みにしたい。

3 長野県立病院機構から

…久保理事長

来年度から始まる第2期中期計画（素案）の概略を説明させていただく。県民の皆様により安心して質の高い医療サービスを安定的に提供していくことを基本理念とする。

県からの指示として「第2期中期目標」が出されており、主なものとして4点が挙げられている。①地域医療、高度・専門医療の推進、②地域包括ケアシステムの構築、③関係機関との連携による様々な取組、④県内医療に貢献する医師の育成・定着（信州型総合医）。

その指示を受け、第2期中期計画の主な取組を5つ挙げた。「5年後のめざす姿」に向けて取り組んでいきたい。

資料の見方として、左側が県の「第2期中期目標」、中央がそれに対する「第2期中期計画」の概略、右側が5か年の年度計画として具体的に各病院が取り組んでいく内容が書かれている。

…平林事務局長

資料「第2期中期目標・中期計画素案（対比）」について、阿南病院に関係する部分の説明。

(1)地域医療の提供について。地域の病院として、市町村等と連携しながら予防医療を推進する。病院内に地域医療支援センターを設置し、在宅医療・公衆衛生活動に力を入れていく。小児や認知症に対する対応も深めていく。へき地医療の提供として、無医地区への巡回診療や、へき地診療所からの要請に基づき医師や理学療法士等を派遣する。

(2) 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進について。阿南病院では、特に訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ・訪問薬剤に注力していく。認知症の認定看護師もいる。

中期目標については11月定例県議会、中期計画は2月定例県議会に上程され、それぞれ承認を受けた上で県から認可を受ける運び。ご意見等あれば、直接機構本部又は病院にいただきたい。

【質疑】

・阿南、木曾、須坂各病院のがん診療について、それぞれの特色は。

→木曾は地域唯一の二次医療病院であり、「地域がん診療病院」の指定を受ける方向。阿南は検診業務が中心。須坂は内視鏡が豊富にあり、消化器を中心とした診療の展開を目指している。それぞれの病院に合った機能の充実を図っていきたい。

4 協議事項

(1) 基本構想・基本計画の策定について（資料1）

…資料による説明（塚平次長補佐兼企画調整担当専門主査）

ポイントのみ説明し、前段の部会の報告をさせていただく。

○ 構想の概要について

基本に据えたのは、構成市町村個々の基礎自治体としての主体性や自立性を十分尊重する中で、個々の施策と干渉することがないように、より広い見地から包括的に捉えたものが本構想である。その前提に立ち、リニア中央新幹線や、三遠南信自動車道が活用される時代を見据える中で、飯田下伊那地域が全体として認識を共有し、進むべき地域づくりの大きな方向性を示そうとしたものが、今回の基本構想基本計画。1ページの最下段、「大きな方向性」＝「地域づくりを進める上での重要な柱」として「定住促進」を据えた。この定住促進を進めるために、当地域が持つ多様な資源や機能、可能性の中から特徴的なものに着目し、5つの地域づくりとして整理した。ただし、5つの地域づくりを設定する前段として、共通するキーワード「観光」「教育」「コミュニティ」「安心・安全」を整理した。その説明は資料のとおり。それを図としてまとめたのが4ページ。

続いて、施策の大綱。5つの地域づくりの行き着く先として「定住促進」を据えたイメージ図が5ページの下段。それぞれの地域づくりの説明は6ページから記している。

11ページ。リニア将来ビジョンは平成22年度に策定されたが、その中で示された将来の地域像4項目について、その具体化のための定義付けをした。

- ①「グローバル化～小さな世界都市～」の具体化として7項目。
- ②「地域ブランドの確立～多機能高付加価値都市圏～」の具体化として7項目。
- ③「守るべきもの、備えるべきもの」の具体化として3項目。
- ④「多様な主体」の具体化として2項目。

「守るべきもの、備えるべきもの」では、これまでお願いしてきた「わがまちのベストテン」の中からまとめたものを書いてあるが、構成市町村から出していただいたものは、構想をまとめる最終的な部分で何らかの形で添付する。

○ 基本計画について

第1節は、構想を実現するための調査研究プロジェクトの推進。

- ①大学との連携による地域施策研究プロジェクト
- ②民俗芸能保存継承プロジェクト
- ③南信州地域への移住・二地域居住可能性調査プロジェクト
- ④観光連携プロジェクト

現在4つの項目に整理しているが、一つ二つ足していきたいと考えている。

第2節が多様な主体・担い手についての記載。

第3節がインフラ整備について4項目。

- ①国際会議を誘致したいという地域づくりにもあるとおり、核となるコンベンションセンター設置
- ②国際大会の開催や、一流アスリートが集う合宿地をめざす中でのスポーツ施設の設置、充実
- ③専門性を持った高等教育機関の設置
- ④研究開発機能の拠点施設の整備、充実

17 ページからの基幹事務事業について。広域連合規約第4条に定められている「広域連合が処理しなければならない事務」について、規約5条で広域計画により定めることとされており、その部分を基幹事務事業として第1～17にまとめた。現在の第3次広域計画の現状分析をする中で、更に先の5年間を追加して作成した。

以上の内容を持って、11月22日にリニア将来ビジョン策定時の有識者に集まっていただく懇談会を開催したい。今回は8名の方が出席予定。市町村長にもぜひご出席いただきたい。

○ 部会での意見集約

・方向付けとしては良いが、具体的な工程、目標が欲しい。実施主体を次の段階で十分検討した上でやってほしい。

・コンベンションセンターやスポーツ施設は必要になってくるとは思うが、自治体の財政状況等を考え、民間活用を含めた連携を考えてほしい。

・トレイルランや登山等を今後の計画にうたってほしい。

・「新たな産業の振興や誘致による地域づくり」中の地場産業高度化の部分で、これからの産業だけでなく、今あるものを十分に活かすことが必要ではないか。半生菓子等の伝統産業についての記述が欲しい。

・民俗芸能の保存、観光等を複合的に連携させることで圏域のイメージアップを図ることを考慮すべき。各市町村がどの部分を担っていくのかを今後考えていく必要がある。

・計画全てを行政が行うのではなく、民間の力、地域外の力が必要になってくるのではないか。

【質疑・意見】

・具体的にコンベンションセンターやスポーツ施設の記述がされているが、中核市である飯田市にと一様に期待されても難しい。ここに書かれているからと言われても、中抜けしているように思う。飯田市では、次期29年度からの構想を策定していくが、この広域計画との関連を考慮していくうえで、この辺りの認識の整理が必要と考える。

→実施主体の検討はこれからという認識である。将来に向かって何が必要かという視点で示した。これをすべて飯田市にとは考えていない。課題として整理していく。

・すばらしい計画だと思うが、広域の仕事は17しか書いていない中で、この計画を具体化していくにはどうすべきかという議論が重要になってくると感じた。

・リニア、三遠南信道が完成すれば、観光面では放っておいても人は来る。もう一度来たいと思わせるようなものが必要。

→調査研究プロジェクトの中で、観光連携の在り方等について具体的な取組を考えている。

(2) 南信州キャンペーン in 銀座について (資料3)

…資料による説明 (秦野次長補佐兼広域振興係長)

銀座NAGANOで12月1日～5日に開催する「南信州キャンペーン in 銀座」についての報告とお願い。12月3日の高校生レストランは、11月8日から受付を開始したところ、数日で満席となった。12月4、5日の夜に開催される「南信州酒場」では、在京の市町村ふるさと会の関係者にご出席をお願いしている。マスターをお願いしている峰竜太さんも、都合の付く限りは来店していただけることになっている。市町村長さんにもぜひご出席いただきたい。

【質疑・意見】

・先日行ってきたが、平日にも関わらず大賑わいで大北地域のPR期間中だった。県が力を入れている印象を受けた。並んでいる商品、これからのイベント等を見ると、東北信が多いように感じた。南信州も力を入れていくべき。

(3) 御嶽山噴火に係る応援活動について (資料4)

…資料による説明 (関島消防次長)

御嶽山噴火に係る当消防本部の対応状況について説明。9月27日に噴火し、21時15分に長野県相互応援協定に基づく出動要請を受けた。翌28日午前1時13分、第1次派遣隊を派遣。終了となる10月17日までの20日間に、延べ47隊158名の職員を派遣した。今後の対応として、県内の消防相互応

援協定に基づく派遣及び県外への緊急消防援助隊に対する迅速な応援体制を有していく。また、当地域に災害が起こった場合には、発生市町村の職員の皆さんにも御尽力をいただくが、消防としても受援体制及び活動の強化をしていきたい。

…渡邊事務局長から

先般の正副連合長・部会長会議で御嶽山のことが話題となり、木曾広域連合長あてにお見舞いを送ることになった。金額は10万円。現在上松町長が連合長を務めているが、先方と日程調整をさせていただいているのでご了承を。

【質疑なし】

(4) 飯田市リニア駅周辺整備基本構想検討会議（第2回）の報告（別添資料）

…資料による説明（細田飯田市リニア推進課長）

11月10日に第2回の会議を開催し、整備のコンセプトや必要となる機能について案を示した。次第「3 報告事項」については既に連合会議で報告済みのため省略。「4 協議事項」(1) リニア駅周辺整備に係る機能と規模については、資料5-1及び5-2参照。

○ 資料5-1について

リニア駅の方向性として「広域交通拠点」及び「高度なトランジットハブ」の2つの考えを示した。長野県に一つの駅であることから、駅勢圏を広げる必要がある。具体的には、各地域とリニア駅を結ぶ鉄道や国道、中央自動車道や三遠南信自動車道等の交通ネットワークを整備することが重要となってくる。特に、リニアの高速性を活かす上では、中央自動車道とリニア駅を最短で結ぶ機能が必要となるが、座光寺のパーキングエリアにスマートインターチェンジを設置することで対応することを考えている。

利用者が目的地に円滑に移動していただくためには、リニアの高速性を活かした中継施設として、様々な交通手段の拠点であることが求められる。時間的にも、距離的にも、繋ぎ目無く接続が可能となる交通結節点、いわゆるトランジットハブが必要。そのための具体的な検討として、①スマートインターチェンジ、②アクセス道路、③JR 飯田線乗換新駅を挙げた。

機能の検討の中では、規模の算定に当たって6,800人という乗降客数をベースとしたことや、高架下空間の有効活用について触れている。駅のコセプトは「環境」と「交流」。

○ 資料5-2について

交通施設の規模の試算について、6,800人という数字をベースに、国の指針に基づき算定しているが、交通事業者へのヒヤリングや駐車場に関する他の整備新幹線の事例を踏まえて検討していく。国の指針に基づき試算した結果、施設規模は20,523㎡となった。その内15,600㎡、おおよそ4分の3がパーク&ライドの駐車場ということになる。駐車台数に換算すると520台になる。他の整備新幹線との比較をすると、八戸市の駅に近い状況になっており、同程度の整備新幹線の駅と比べても平均的な駐車台数ということになる。ただし、郊外設置型と中心設置型では状況が異なり、郊外設置型の方が概して駐車台数が多い。また、利用意向調査による駐車場規模の想定では、上伊那も含めた数値として、概ね4割の方が自家用車の利用になっており、それらの点を踏まえた上で再計算したところ、約1,000台程度の駐車場が必要という結果になった。駐車台数を520台～1,000台とした場合、交通施設規模は2～3.5ヘクタールという試算となった。

○ 再び資料5-1

スライドNO. 26で駅周辺整備を検討するエリアを示した。ピンク色部分はJR 飯田線乗換新駅の想定範囲。地理的条件を踏まえた中で、機能と高架下空間の利用の程度に着目し、配置に関する検討を行った結果を3案にまとめた。

高架下空間の利用度が高いものをA案、中程度をB案、低い場合をC案として示した。それぞれイメージ図をご覧いただきたい。A案は交通広場を一体的に整備することが可能。B案は駐車場等の機能を集約することで土地と施設の利用効率を高める。C案は交通機能の特性を考慮し、北側を広域交通の拠点に、南側を地域交通の拠点と位置付ける考え方。3案のなかでどれを選ぶかということではなく、案を示すことにより今後の議論の出発点とするものと理解いただきたい。

【質疑】

- ・今後 6,800 人という数字を更に精査していく上で、減った場合に、整備計画に与える影響は。
→数字が変われば当然規模も変わってくるが、必要な機能に対する規模としてどのくらいの面積が適正かということもある。
- ・長野県駅は、伊那谷、更には長野県全体の発展のためにどう活かしていくかということになる。伊那谷や、長野県との調整は行っているのか。
→県の担当部局と定期的に連絡を取るとともに、リニア推進室とは職員の相互派遣を行い情報収集をしている。伊那谷では、伊那谷自治体会議の幹事会において情報交換を行っている。
- ・3案が提示されたが、目安としていつ頃決定されるのか。取付け道路等は時間が掛かる問題のため、早い段階で示していただきたい。
→基本構想は年度内に示す予定。
- ・景観について具体的なことは決まっているのか。
→これからである。現段階は、交通結節機能に特化して検討してきた。
- ・広域連合「基本構想・基本計画」との整合性を取って進めていただきたい。

(5) その他

…渡邊事務局長から

11月19日に南部国道の提言活動を予定している。当地域は国土交通省。国会は色々な状況があるが、基本的には予定どおり進める。

…熊谷阿智村長から

映画「望郷の鐘」が完成した。先週東京で試写会が行われた。今後は11月24日に阿智で試写会、12月6日から千劇、13日からトキワ劇場で上映開始。1月下旬くらいから希望のあった各町村で上映させていただく。

5 今後の日程

12月1日(月) 広域連合議会 第2回定例会 消防本部

12月12日(金) 広域連合会議 長野県飯田合同庁舎 502・503号

6 閉会…15:31